

『学び合い』に挑戦!

「一人も見捨てない」授業で、「全員ができた」を目指す



発行所
常磐南小学校
電話 46-2005
FAX 46-2048
— 第25号 —
2022.6.30

以来、大河ドラマを軸に、関係する書籍を読み、現地を訪ねるといったライフスタイルができあがった。

白い。私は初めてそう感じた。
以来、大河ドラマを軸に、関係する書籍を読み、現地を訪ねるといったライフスタイルができあがった。

2022. 6. 30

どっしる家康

*NHK大河ドラマ 1月スタート

校長 都筑 祐一

大学生になったとき、友達から出身地を聞かれ、「岡崎」と答えた。「?'という表情に、「徳川家康生誕の地だよ」と付け足すと、「へーそうなんだ」と、こちらに関心が向いた。しかし、その後が続かない。
小中高と、国語の次に社会が嫌いだ。先生のせいにしたくはないが、授業は眠い。テストのために詰め込んだ知識は3日で消滅。信長も秀吉も家康も、私の頭からあつという間に消えた。

子どもたちには郷土の英雄、家康をわずかも語れる大人になってほしいと思う。深い岡崎愛とともに。

子どもたちには郷土の英雄、家康をわずかも語れる大人になってほしいと思う。深い岡崎愛とともに。

素読百回、意、おのずから通ず。漢字や意味がわからなくても、音読するうちにやがて言葉の意味がわかるようになる。さらに長文の暗唱は、言語の右脳処理を促し、子どもの言語能力等を育てる効果がある。
そして今、遺訓暗唱に続く第2弾。「ときなんつ子家康検定」の準備を進めている。子どもたちの家康への理解を、楽しく深める機会になればと願いながら。

そしてついに、そのときがやってきた。大河ドラマ「どっしる家康」。郷土の誇り、家康の登場だ。
押し付けるつもりはないが、ぜひこのドラマをみんなで楽しみたいと思う。家康を知ることが、郷土岡崎を知ること。そして、岡崎愛を育むまたとない機会となる。
そこで、ときなんつ子への手ほどきとして、家康公の遺訓暗唱を呼びかけた。現在85名の子どもたち(47%)が暗唱に成功し、表彰状を手にした。